

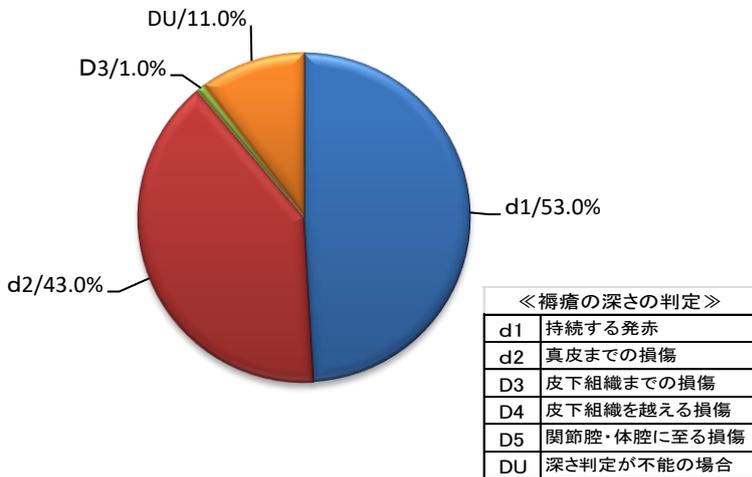
II 褥瘡対策チーム



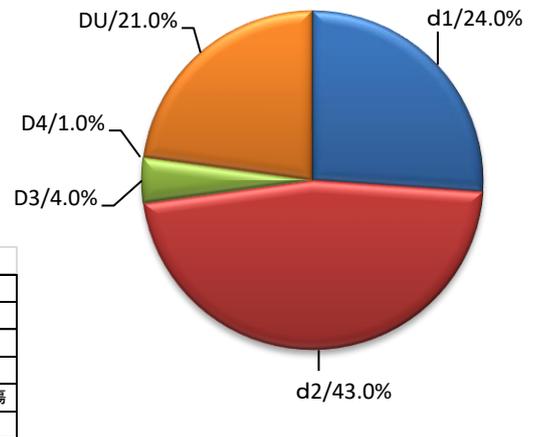
当院は急性医療総合センターを持つ特定機能病院であり、褥瘡ハイリスク要因を持つ患者さんが多い。褥瘡対策チームは、褥瘡の発生予防と早期発見・早期治癒に向け多職種（皮膚科・形成外科医師、皮膚・排泄ケア認定看護看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、薬剤師）で構成されており、病棟看護師や褥瘡専任看護師と連携しながら活動を行っている。

2021年度は一般褥瘡では、尾骨、仙骨、踵など荷重がかかる部位への発生が多く、また、新型コロナウイルス感染症の治療のために取る腹臥位で下顎の発生も特徴的であった。本年度はこれらの部位の発生を低減させるためにポジショニングに力を入れた教育活動を検討している。医療関連機器圧迫創傷では、末梢ルートや弾性ストッキングによる発生が多いが、コロナ禍においてサージカルマスク着用による耳介への発生増加が目立った。褥瘡発生を予防するにはリスクアセスメントと観察が重要である。各診療科や病棟へタイムリーにデータをフィードバックし、教育や啓蒙活動を行い、病院全体で褥瘡の発生低減に取り組めるような活動を行っていきたいと考える。

II-1 2021年度深さ別発生率(新規発生褥瘡)

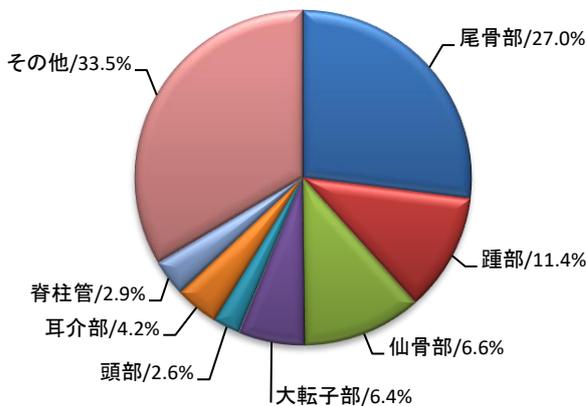


II-2 2021年度深さ別発生率(持ち込み褥瘡)

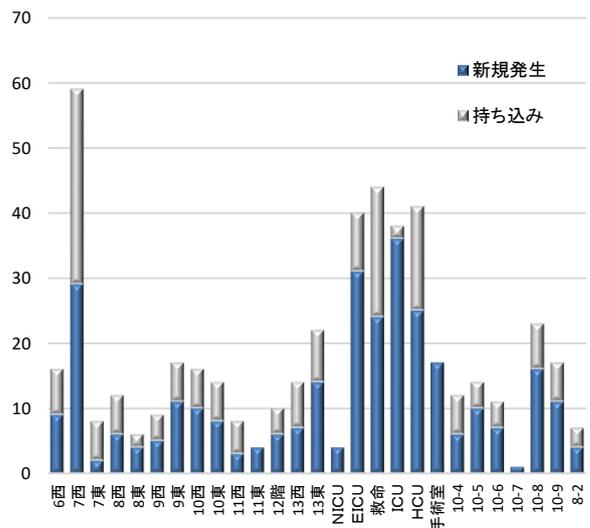


《褥瘡の深さの判定》	
d1	持続する発赤
d2	真皮までの損傷
D3	皮下組織までの損傷
D4	皮下組織を越える損傷
D5	関節腔・体腔に至る損傷
DU	深さ判定が不能の場合

II-3 2021年度部位別褥瘡発生率(新規発生褥瘡)



II-4 2021年度部署別褥瘡発生状況



※ 2018年度より部署別褥瘡発生状況に変更

II-5 過去5年間の褥瘡発生率

区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
発生率	1.27%	1.59%	1.75%	1.80%	2.13%